

# 川上宏奨学金報告書

令和4年2月25日

## 1. 論文タイトル

中国ソーシャルメディアにおける集団的ファン行動の不文律  
—日本のファンコミュニティを比較対象として—

## 2. 論文要旨

情報化社会である現在、ファンたちは、ソーシャルメディアの中でコミュニティ単位で応援活動を展開し、コミュニティと個人の相互作用の中で多くの不文律を生み出している。本研究は、不文律に関わる問題を中心として、中国ソーシャルメディアにおけるファンコミュニティについて明らかにすることを目的としている。本研究は質問紙調査とインタビュー調査から成る。

質問紙調査では、中国ソーシャルメディアにおけるファンコミュニティ行動の構造を明らかにし、日本のファンコミュニティと比較して中国におけるオンライン・ファンコミュニティの特徴を明確にした。ファンコミュニティ行動項目について因子分析を行い、中国ソーシャルメディアにおけるファンコミュニティ行動の5因子構造を明らかにした。「イメージ・アピール行動」、「イメージ・プロテクト行動」、「相互規制行動」、「集団間の対立行動」、「集団内除外行動」である。これらの因子のうち、「相互規制行動」と「集団内除外行動」はファンコミュニティの不文律に関わっている。

また、日中比較から、中国のファンは日本のファンと比べて、ソーシャルメディアにおけるファンコミュニティ行動を行う程度が高く、ファンコミュニティに所属しているという感覚が強く、集団内でのアイデンティティをより積極的に求めている傾向が見られた。ファン個人アカウントにおける行動についても、日本より中国のファンがより慎重に個人アカウントの運営と管理をしていることがわかった。ファンコミュニティの不文律が個人アカウントの自己管理と規範行動に反映されているため、中国のほうが日本より不文律の力が大きいと言える。

インタビュー調査では、ファンコミュニティ内部の視点から、中国ソーシャルメディアにおけるファンコミュニティの不文律の受け止められ方を検討した。その結果、次のこと

が明らかになった。ファン個人アカウント管理については、「単一属性強調」（単一のファン対象のファンとしてアピールする）と「属性回避」（ファンであることを隠す）の2つの傾向が見られる。中国のファンたちは、コミュニティの不文律を窮屈・不自由と感じることはあっても、肯定的に受け止め、積極的に個人アカウントの自己管理と規範行動を行っている。その動機づけには、ファンコミュニティ内でのアイデンティティの維持と自己同一視、ファンコミュニティへの責任感、ファンとしての自由で安心できる環境を保とうとすることの三つがある。

本研究は、情報化時代のファンコミュニティに関する研究の蓄積に貢献できると考える。特に、ソーシャルメディアにおけるファンコミュニティの不文律に関する内部の視点からの研究は新しい。不文律のとらえられ方を知ることが、ファンコミュニティを変革し、問題を解消することにも活かせると思う。

### 3. 奨学金使途

- ・書籍代
- ・書籍の送料（海外から）
- ・オンライン有料文献のダウンロード
- ・国会図書館でのコピー代
- ・調査協力者への謝礼品代
- ・パソコン修理代

### 謝辞

本研究を行うにあたり奨学金を給付して下さった故川上宏先生とご家族、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。